



この取扱説明書では、購入した車両の正しい使用方法・安全な運転・簡単な検査方法について説明しています。より快適で安全な運転をするためによくお読みください。

車両を購入する際、購入者の権利と利益を守るためにも、この取扱説明書についてSYM販売店にお問い合わせいただき、あらかじめ以下の内容について確認してください。

- 車両の正しい使用方法。
- 保証、保証内容、保証期間。
- 納期前の点検、メンテナンスに関する事項。

車両は予告なしに外観や構造の変更が行われたり、取扱説明書の写真や説明が実際のものとは異なる場合があります。

◎安全上の注意◎

お客様とお客様の車両の安全を守るために、この取扱説明書では車両を使用する際の大切な注意点をいくつか明記していますので、よくお読みになり指示事項には特に注意をしてください。

またここでは、事故や重大な怪我につながる可能性のあるいくつかの注意事項について述べており、それぞれの注意事項には以下のような警告サインが使われています。

！危険

取扱いを誤った場合、重大な怪我や死亡につながる恐れがあります。

⚠警告

取扱いを誤った場合、重大な怪我や死亡につながる恐れがあります。

！注意

取扱いを誤った場合、車両破損など物的損害が発生する恐れがあります。

◎それぞれの要因からどのような危険が発生するのか、またその危険を回避・軽減するにはどうしたら良いのかについても説明しています。

◎この取扱説明書には、上記3つのサイン以外にも、車両に損傷を与える可能性があるケースではいくつかの別の注意喚起サインが使われています。



1.目次	1
2.各部の名称.....	3
3.保証について	4
4.排気ガス制御システムの保証について	5
5.定期メンテナンス	6
6.お乗りいただく前に	7
排出基準を満たすために.....	7
SYM 純正部品の使用	7
安全運転.....	8
運転方法.....	8
コーナリング	9
ブレーキング	9
7.各部の操作方法	10
LCD ディスプレイ.....	10
メインスイッチの操作.....	12
盗難防止磁気シャッター.....	12
ハンドルバースイッチ.....	13
フロントコンパートメント.....	14
ヘルメットホルダー	14
燃料タンクキャップ	14
USB ソケット(青色 LED)	14
ラゲッジスペース	15
ブレーキング	15
エンジンの始動と注意事項.....	15
発進	15
スロットルコントロール.....	16
エンジン停止と駐車	16
トランスミッション	16
8.乗車前点検とメンテナンス.....	17
日常の点検.....	17
燃料の点検.....	17
オイル点検と交換	17



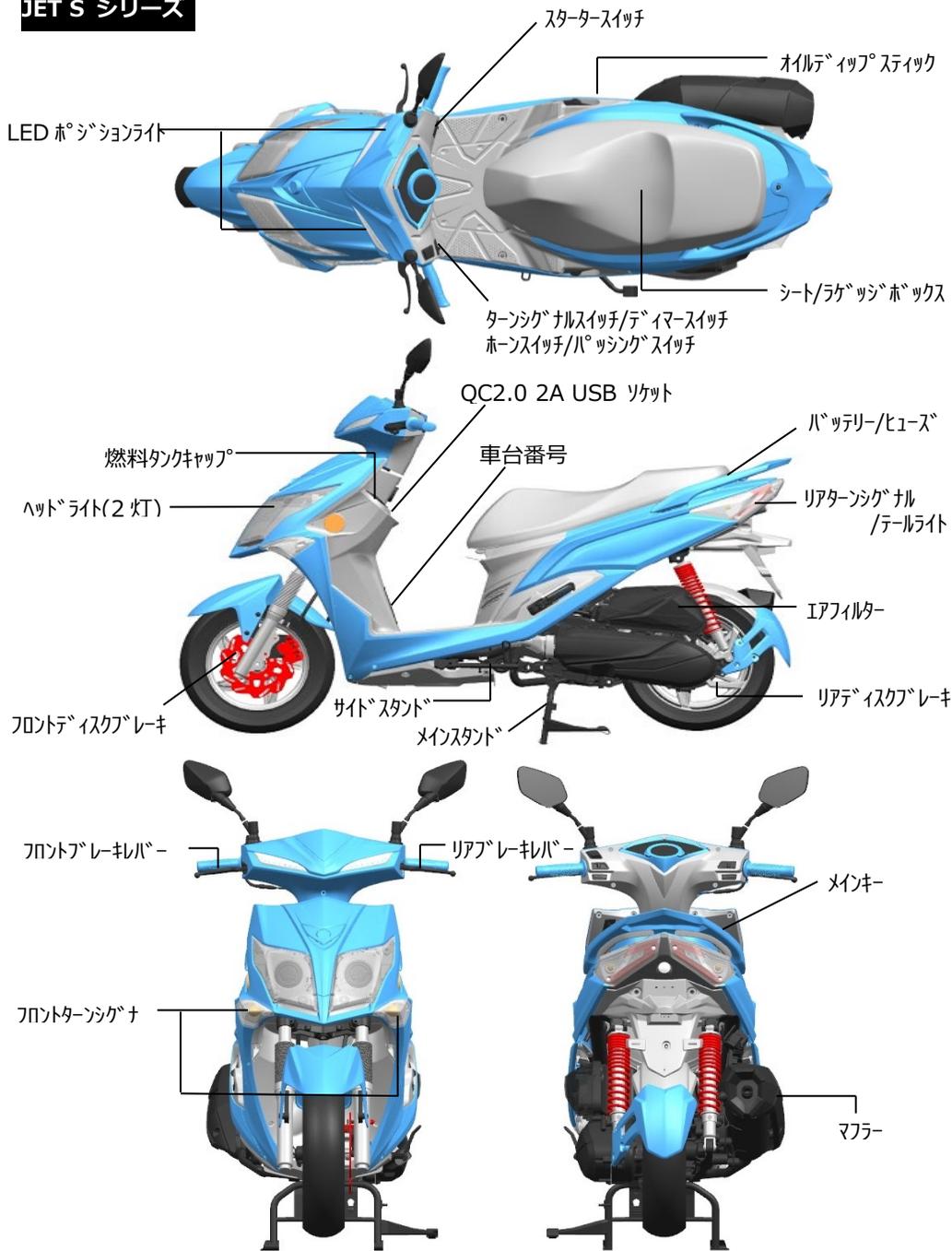
トランスミッションオイルの点検と交換.....	18
ブレーキシステムの点検.....	19
スロットルの遊び量の点検.....	20
バッテリーの点検.....	20
タイヤ/タイヤ空気圧の点検.....	21
ステアリング/フロントフォークの点検.....	21
ヒューズの点検と交換.....	22
ヘッドライトとテールライトの点検.....	22
ブレーキランプの点検.....	22
ターンシグナルとホーンの点検.....	23
燃料漏れの点検.....	23
各部の潤滑点検.....	23
スパークプラグの点検.....	23
エアクリーナーの点検.....	24
クランクケース内圧コントロールバルブ.....	24
9.トラブルシューティング.....	25
エンジンが始動しないとき.....	25
10.大気汚染物質排出制御システム.....	26
排気ガス制御システム.....	26
燃料蒸発ガス排出制御システム.....	26
三元触媒コンバーター.....	26
クランクケース内圧減圧バルブ.....	26
電子制御ユニット.....	26
酸素センサー.....	26
二次空気導入装置.....	26
11.車輻の大気汚染物質排出基準に関する情報.....	28
12.燃費の向上と大気汚染物質排出削減について.....	28
13.車輻から排出される大気汚染物質の要因.....	29
14.諸元.....	30
15.付表(巻末注意書).....	31
16.保証約款.....	33





2. 各部の名称

JET S シリーズ





3. 保証について

- 一、保証内容：SYM のすべてのモデルは、通常の使用条件下において不具合が見つかった場合、保証期間内であれば会社が無料で修理します（一般的な消耗部品を除く）。またその際、必要に応じて新しい部品と交換することができますが、使用されたすべての部品は当社に帰属します。
- 二、保証期間：1.非消耗部品の保証期間は車両のライセンス日から始まり、1年以内。
2.排気ガス制御システム機能の保証：走行距離 20,000 キロまたは1年以内(いずれか早い方を適用)。
注：保証修理を行う場合は、ディーラーにてメンテナンス記録シートを提示する必要があります(メンテナンスの期間やディーラーの署名など、定期的な記録が必要です)。
- 三、以下の場合は保証が適用されませんのでご注意ください(メンテナンスが必要な場合は、各地域の SYM 正規販売店が責任を持って適正な価格でお客様にサービスを提供させていただきます)。
 1. 定められたメンテナンス期限、または走行距離に従ってメンテナンスを行っていない場合。
 2. 環境保護庁の規定による 92 オクタン以上の無鉛ガソリンを使用しなかったために故障した場合。
 3. 過積載などの不適切な使用による故障。
 4. 車両の勝手な改造、部品の分解、指定品以外の機器を取り付けるなどしたための故障。
 5. SYM 正規販売代理店以外でのメンテナンス、調整、修理によって引き起こされた損傷および誤動作。
 6. 当社の純正または推奨エンジンオイル以外の、同等のグレードとされる商品の使用による損傷(詳細については、この保証とメンテナンス項目の説明を参照してください)。劣化、または再生利用した潤滑剤の使用による損傷。ここで述べられている「損傷」には、因果関係のない他の部分は含まれない。
 7. シリコン化合物を含む洗剤やワックスの使用による車体塗装の損傷。塩害、酸性雨、高温多湿により引き起こされたメッキ部分の腐食や酸化(ボディ塗装の光沢と明るさを維持するために、頻繁に拭き取りなどを行ってください)。
 8. 自然災害、または交通事故や異物の衝突などによる損傷。
 9. 煙、薬品、鳥の糞、塩分、硫黄または化学物質(液体)などの外的要因によって引き起こされる不具合。
 10. パフォーマンスショーやドラッグレースなど、通常のリディング以外の特殊な環境下での使用。
 11. マット加工をしたボディの塗装を研磨・ワックス等をかけた場合(塗装表面に損傷を与える可能性がありますので、細かい砂や埃を取り除く場合にはきれいな水と中性洗剤を使用してください)。



3. 保証について

四、非保証部品(消耗部品)

エンジンオイル、ギアオイル、ブレーキフルード、ラジエーター冷却水、エアフィルター、オイルフィルター、ガソリンフィルター、ヒューズ、電球、ブレーキディスク、クラッチディスク、スプリング、バッテリー、ゴム(オイルリング、オイルシール、ガスケットを除く)、ドライブベルト、スパークプラグ、ワイヤー(ブレーキケーブル、スロットルケーブルなど)、タイヤ(インナーチューブを含む)など。

- 五、保証範囲の制限： 購入車両は、規則に従い定期的にメンテナンスをする義務があり、異常が発見された場合は速やかに修理する必要があります。お客様のご都合による修理の遅れで、異常箇所の範囲が拡大した場合、会社は一切の責任を負いません。

六、実費(保証の範囲内に含まれないもの)

1. 保証期間中のメンテナンス、または車両修理によって生じる派生費用及び損失(例：牽引料金、レンタカー料金、貨物、電話、ファクシミリ料金、修理料金など)。
2. 定期メンテナンス料金(消耗品の費用、グリース、燃料などの交換または補正費用を含む)。
3. SYM 正規販売代理店以外で車輛を修理する費用。

- 七、保証の適用範囲：これらの保証は、日本国内で販売されている SYM 商品(車両)に適用されるもので、上記のエリア以外では適用されません。

八、保証の履行

1. この保証によって実施される修理、点検、部品交換およびその他の保守作業は、すべて当社が指定する SYM 正規販売店によって行われますが、状況により当社が、修理・サービス場所を指定する場合があります。
2. 保証期間中に保守・修理を行う場合、メンテナンス記録シートと運転免許証を携帯する必要があります。
3. 車輛の所有者が定期メンテナンスを行う場合、メンテナンス記録シートにメンテナンスの詳細とディーラーの署名がない場合は保証を受けられません。
4. 保証内容は、予告なく変更される場合があります。
5. この保証書(オーナーズマニュアル)は大切に保管してください。紛失しても再発行はされません(メンテナンス記録を提出できる場合を除く)。また、メンテナンス記録に不正があった場合はこの保証書は無効となります。



4. 排気ガス制御システムの保証について

一、この車輛の排気ガス制御システムは法律の規定に準拠しており、有効使用期間内(1年または20,000kmのいずれか早いほう)にユーザーが通常の使用と保守を完全に遵守した場合、会社がそれを保証します。

二、保証範囲：

1. 汚染防止および制御機器項目：

触媒コンバーター、クランクケース内圧減圧バルブ、活性化カーボンキャニスター、酸素含有量センサー、電子制御ユニット(ECU)、二次エアシステム。

2. 排気ガス制御システムの機能保証：

この車輛は、有効使用期間内(1年もしくは20,000kmのいずれか早いほう)における、政府機関が実施する定期的または不定期的に行われる排気ガス検査に適合しています。

三、以下の場合には保証が適用されませんのでご注意ください(メンテナンスが必要な場合は、お客さまが購入されたSYM正規販売店が責任を持って適正な価格でお客様にサービスを提供させていただきます)。

1. 定められたメンテナンス期限、または走行距離に従ってメンテナンスを行っていない場合。

2. 過積載などの不適切な使用による故障。

3. 車輛の勝手な改造、部品の分解、指定品以外の機器を取り付けるなどしたための故障。

4. 92オクタン以上の無鉛ガソリンを使用しなかったために故障した場合。

5. レースなど、通常はオートバイで使用されない道路で使用されたことによる損傷。

6. 台風や洪水などの自然災害による被害、または不注意による過失、交通事故、異物との衝突による被害や故障。

7. 適切なメンテナンスを行わずに、長期間使用を停止している場合。

8. 走行距離計の不具合の修理を行っていないか、または人為的に変更、停止、交換された場合。

9. 定期的に、排気ガス検査を受けていない場合。

当社の新車は、2020年現在、監督官庁による最新の大気汚染物質排出基準、および車輛の騒音基準に準拠しています。なおそれに関する情報は、車体に添付・記載されています。



【定期メンテナンス項目については、メンテナンスマニュアル「**4ストロークスクーターシリーズ**」のメンテナンス・スケジュールを参照してください】

- 一、台湾政府は、環境汚染の悪化を受けて 1969 年 6 月 5 日、メーカーが製造する全ての車輛に向けて「車輛の大気汚染排出基準」を発行しました。これを受けて当社では、基準に達する製品の他にも空気の浄化と大気汚染の低減に取り組んでいます。
- 二、この車輛は、工場出荷時に厳重に検査され「車輛の大気汚染排出基準」の法令に準拠しておりますが、正常にご使用いただくためにもお客様による定期的な検査、調整、メンテナンスを行っていただく必要がございます。
- 三、その他個別に問題が発生した場合は、お気軽に SYM 正規販売店にご相談ください。
- 四、車輛の状態を最良の状態に維持するためにも、SYM 正規販売店にて定期的な検査、調整、またはメンテナンスを行ってください。

注 1. 砂利道や環境汚染が深刻な場所を運転する場合は、エンジンの寿命を延ばすためにもエアフィルターをより頻繁に清掃・交換する必要があります。

注 2. 頻繁に運転または高速運転をする場合は、メンテナンスの頻度を増やす必要があります。

ご購入いただきまして誠に有難うございます

新車ご購入後、走行距離が 300km を超えましたら販売店にて初回点検を受けてください。その後 1,000km 走行毎に、定期的な点検をうけていただくのが理想です。

ご購入いただきました車両を最良の状態でご使い頂くためにも、定期的な点検とメンテナンスを実施して頂きますようお願い申し上げます。

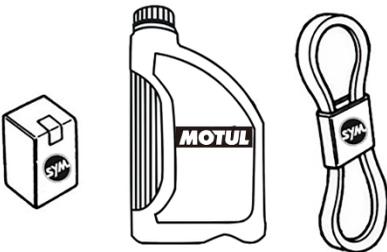
- 当マニュアルでの新車の騒音検査結果は、106 年 1 月 1 日に環境保護庁が施行した車輛の騒音対策基準第 6 項に準拠しています。

排出基準を満たすために

- 一、燃料の使用：92 オクタン以上の無鉛ガソリンを使用してください。
- 二、エンジンオイルの使用：SAE 10W-40 API SJ、または同等グレードのオイルを使用してください。MOTUL 製のエンジンオイルの使用をお勧めします。
- 三、定期メンテナンススケジュールに従ってください(4 ストロークスクーターシリーズメンテナンスマニュアル定期メンテナンスチェックリスト参照)。車輛の所有者は、所轄官庁と協力して必要な検査やテストを受ける義務があります。
- 四、排気ガス制御システムに関しては、任意の調整または交換(スパークプラグの使用、アイドルリングスピードの調整、点火タイミングの調整などを含む)は固く禁じられています。
- 五、注意事項：点火方式、充電方式、燃料コントロール方式は、触媒装置が正常に排気ガスを変換する機能を発揮できるかどうかに関係しますので、エンジンがスムーズに動かないと感じた場合は、弊社の SYM 正規販売店でご確認・調整、または修理してください。
- 六、この車輛の排気ガス制御システムは、政府の規制に準拠しているためシステムの一部を交換する必要がある場合は、指定された SYM 正規販売店が当社の元の部品を使用して修理する必要があります。

SYM 純正部品の使用

このスクーターは、その設計された能力を最大限に発揮させるために、厳しい品質管理の下で製造された高品質な部品で構成されています。「SYM 純正部品」は、こうした構成部品と同様の基準で設計され、提供されます。いかなる部品も、設計基準を満たした上に、厳しい品質管理を受けない限り、市場に提供されることはありません。従いまして、「SYM 純正部品」は、SYM 正規販売網店からのみお買い求めください。もし純正部品ではない、格安な粗悪品をお求めになった場合、商品の品質は保証いたしかねますし、耐久性も期待できません。当然これはまたスクーターの性能の定価や予期せぬトラブルにつながる恐れもあります。



SANYANG
GENUINE PARTS



6. お乗りいただく前に

安全運転

運転する際は、リラックスし、正しい服装で、交通規制に従い、急がず、常に慎重に運転することが非常に重要です。

一般に、ほとんどのお客様は新しく購入したスクーターを非常に注意深く乗っていただけますが、慣れるにつれ運転は無謀になりがちであり、事故に遭う可能性が高まるようです。

忘れずに！

- ヘルメットを着用すること。
- 運転中は携帯電話を使用しないこと。
- 制限速度を守ること。
- 定期的なメンテナンスと検査を行うこと。



△ 警告！！

- ライダー、パッセンジャーのいずれも車輛の左側から乗車し、またパッセンジャーはマフラーで火傷しないよう、必ずフットレストに足をのせてください。
- 歩行者の安全の確保のため、二人乗りしない場合はパッセンジャーフットレストをもとの位置に戻してください。
- 走行後、しばらくマフラーは高温のままです。通行人などがマフラーに誤って接触し火傷を負うことがないよう、駐車位置には十分注意してください。

運転方法

- ライダーの運転姿勢は走行中の安全性に大きく影響します。体をリラックスさせた状態で、常時車体の中心に体の重心を保持するよう努めましょう。重心が車体の後方にあると、前輪の荷重が不足し、ハンドルが振れて危険な状態に陥る恐れがあります。

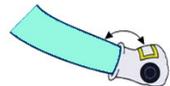
正しい姿勢



誤った姿勢



指1本分開ける



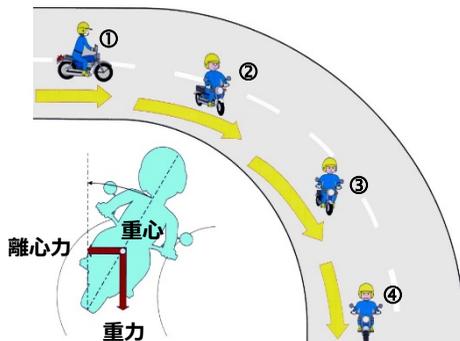
手首の角度

コーナリング

- カーブを曲がるときは体を曲がる方向に傾けると、遠心力により自然に旋回することができますが、そうでない場合は車体が非常に不安定になることがあります。

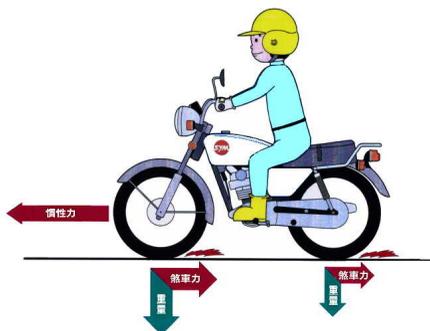
コーナリングのポイント：

- ①.カーブに入る前に減速。
- ②.カーブの中では速度を一定に。
- ③.カーブの出口で適切に加速。
- ④.カーブを抜けたら安全を確認し再加速。



ブレーキング

- ブレーキをかけるときは、前輪・後輪の特性をよく理解し必ず前後ブレーキの双方を使用してください。急ブレーキや強すぎるブレーキはタイヤをロックさせたり、スリップまたは車体の安定性を失い事故につながる原因にもなりますので十分に注意してください。



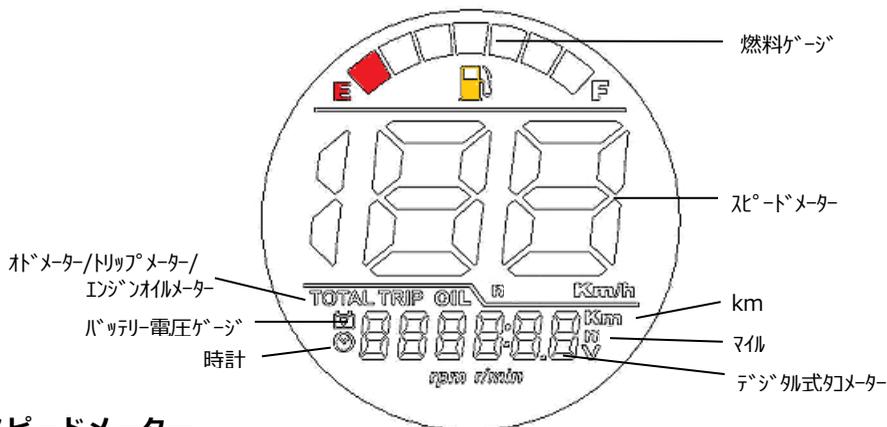
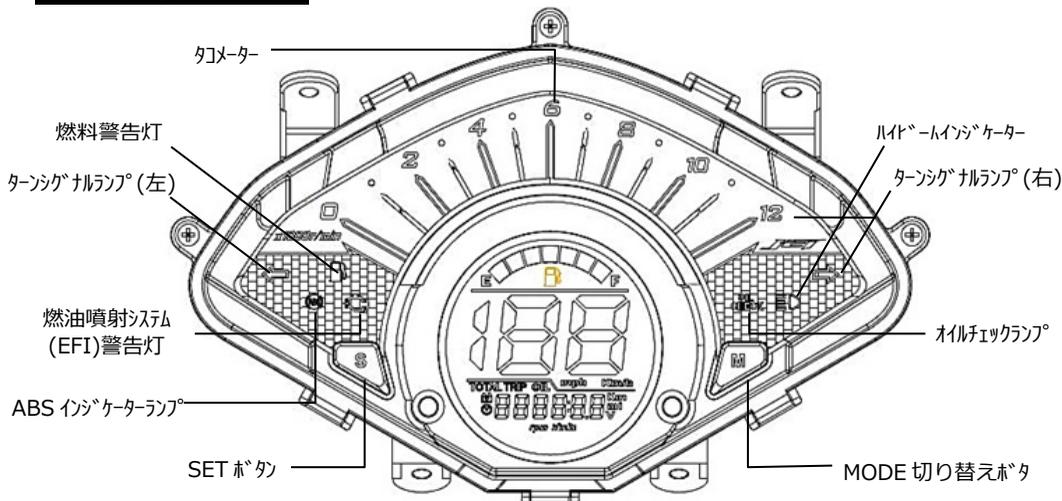
- スクーターは、路面が凸凹だったり未舗装の路面では制御が困難な乗り物です。可能な限り事前に路面状況を把握し、安全に運転できるように心掛けるようにしましょう。

△ 注意

- 車輻火災につながる恐れがありますので、サイドカバーとエンジン間に布など可燃性のものは挟まないでください。
- 車輻の損傷を防ぐため、指定位置以外の場所に荷物等を積載しないでください。
- 指定荷重を超える積載は、運転操作に影響を与える恐れがありますのでおやめください。
- 重量物または過積載は、運転に影響を与えますのでおやめください。
- 車輻の改造は、車輻の構造や性能に影響を与えエンジンの動作不良や排気・騒音を生じるだけでなく、車輻の寿命を縮めることにつながりますので絶対におやめください。

(以下、SYM 4 ストローク JET S シリーズの基本操作です。機種によって若干操作や装備が異なる場合がございますので、巻末の付表をごらんください)

LCDディスプレイ



スピードメーター

走行速度を表示します。速度単位：km/h (Km/h)。

オドメーター & LCD ディスプレイ

MODE スイッチで表示切替：総走行距離(TOTAL)/リセット後の走行距離(TRIP)/エンジンオイルの使用距離(OIL)/バッテリー電圧(VOLTAGE)/時計(CLOCK)/エンジン回転数(RPM)。

左/右ターンシグナルランプ

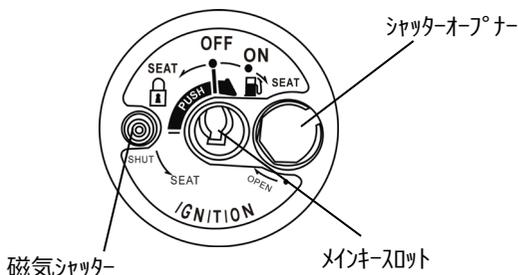
スイッチを右または左に動かすと、対応するターンシグナルランプが点滅します。

ABS インジケータランプ (該当車輛のみ)

メインスイッチ ON で点灯し、走り出して速度が 5 km/h を超えると消灯します。アンチブレーキロックシステムが正常に機能していればランプは消灯したままですが、機器の不具合がある場合は点灯した状態になります。

※通常のブレーキは問題なく機能しますのでご安心ください。

メインスイッチの操作



磁気シャッターキーエント



磁石防盜鑰匙

“ON” ON ポジション

この位置でエンジンを始動させます。
この位置ではキーは抜けません。

“OFF” OFF ポジション

この位置でエンジンが停止します。
キーを抜くことができます。

燃料キャップオープナー

燃料キャップを開けます。
キーを「OFF」位置にし、キーを押し込みながら時計回りにまわして下さい。
手を離すと「OFF」位置に戻ります。

“SEAT” シートオープン

この位置でシートが開きます。
“OFF”位置から左にキーを回すか、
“ON”位置から右に回すとシートが開きます。

ロック

この位置でハンドルが固定されます。
キーを OFF 位置にしてエンジンを停止させ、ハンドルを完全に左に回してからキーを反時計回りに押し回してロックさせます。

盗難防止磁気シャッター



盗難防止磁気シャッターボタン
“SHUT” ボタンを押すとキースロットが閉じます。



磁気シャッターオープナー
磁気シャッターキーエンド(マグネット式盗難防止キー)をオープナーの穴に差し込み位置合わせをして、右方向(**OPEN** の位置)に回して開けることができます。

⚠ 警告:

- 保護フィルムが鍵穴に入って異常を起こさないよう、保護フィルムはあらかじめ剥がしてご使用ください。
- 操作や機能に影響を与えないよう、キー本体にキーホルダーやアクセサリをつけすぎないでください。
- スピードメーターなどの保護フィルムを付けたままだと、強い直射日光や雨天時にメーターの視認性が悪化する恐れがありますので仕様前に必ず剥がしてください。
- 湿度の高い状態になるとスピードメーターやライト内部に水滴がついて曇ることがありますが、機器の異常ではなく湿度が下がれば曇りは解消されます。

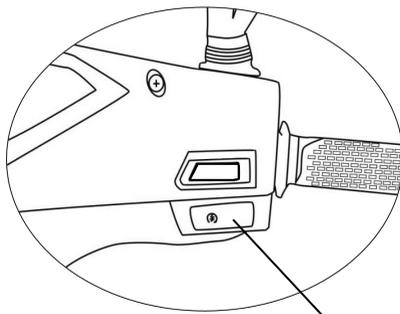
ハンドルバースイッチ

パッシングライトボタン

ディマースイッチ

ターンシグナルスイッチ

ホーンスイッチ



スタータースイッチ

デイトムランニングライトシステム(一部の車輻に適用)

メインキーを ON にすると、ポジション灯、テールライト、ナンバー灯が同時に点灯します。

⚠ 注意！！

メインキーを ON にすると DRL が起動しますが そのまま長時間エンジンをかけずにいるとバッテリーが上がる恐れがあります。

スタータースイッチ



スタータースイッチを押してエンジンを始動させてください。

メインキーを ON に回して、フロントまたはリアブレーキを握った状態でスイッチを押しエンジンを始動させます。

⚠ 注意！！

- エンジンの破損を避けるため エンジン始動後はスタータースイッチを押さないでください。
- 安全のために、エンジン始動時は必ずブレーキをかけておいてください。

ディマースイッチ

High beam

Low beam

PASSING パッシングライトボタンを押している間 ライトがハイビームになり前方の車輛や対向車に警告することができます。ボタンから指を離すと元の状態に戻ります。

ターンシグナルスイッチ

- スイッチを右または左に押すと呼応するターンシグナルが点滅します。
- プッシュキャンセル式装置が装備されています。

右ターンシグナルインジケーター

左ターンシグナルインジケーター

ホーンボタン

メインキーが ON の時、ボタンを押すとホーンが鳴ります。

フロントコンパートメント

- ハンドル操作に影響を与えますので、フロントコンパートメントに重いものを入れないでください。
- 洗車時に、中に物を入れたままにしないでください。

⚠ 注意！！

- トランスミッションシステムに影響を与える恐れがありますので、グローブボックスの通気口は塞がないでください。

ヘルメットホルダー

- シートを開けてフックにヘルメットをかけてから、シートを閉めてロックします。

⚠ 注意！！

車体に傷がついたりヘルメットを損傷する原因になりますので、乗車中はヘルメットをヘルメットフックにかけないでください。



7. 各部の操作方法

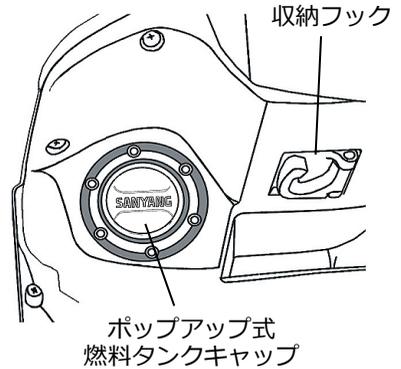


燃料タンクキャップ

- メインスイッチを OFF の状態から、右方向  に押し回すと、燃料タンクキャップが自動的にポップアップして開きます。
- 給油後はキャップをしっかりと押し下げて（カチッと音がするまで）蓋を閉めます。

注意！！

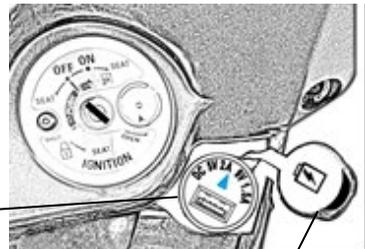
- 給油時は必ずエンジンを切って、まわりに火の気がないことを確認して行ってください。
- 吹きこぼれに注意しながら行ってください。
- 大気汚染物質排出制御システムに影響を与える恐れがあるため、ガソリンは入れすぎないでください。
- 必ず、92 オクタン以上の無鉛ガソリンを使用してください。



QC2.0 2A USB 充電ユニット(青色 LED)

1. 定格電圧：メインキー ON の状態で DC 12V 入力
2. 使用電圧範囲：11.5V~15V
3. 電圧出力：DC5V±0.5V、9V±0.5V、12V±0.5V・LED オン
4. 出力アンペア：2.0±10%A、1.5±10%A、1.0±10%A・自動切換
5. 高速充電サポート：BC1.2、QC2.0・自動切換充電
6. 過負荷保護：2.4±10A%，LED オフ
7. 過熱保護：105° C を超えた場合出力が遮断され、
気温が 90±10° C まで下がると、出力は自動的に回復
8. USB 充電ソケット防水カバー：USB ソケットを清潔で乾いた状態に保つため、カバーを適切に使用することで埃の侵入を防ぎ、またソケットの錆つきを防止します。

USB ソケット



防水カバー

ラゲッジスペース

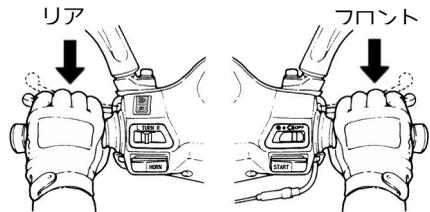
- 荷物入れスペースはシート下にあります。
- シートを閉じる際、正しくロックされているか確認してください。
- スクーターから離れる際、貴重品は入れたままにしないようにしましょう。
- 最大積載量：10kg
- 洗車前には、荷物を取り出すのを忘れないようにしてください。

⚠ 注意！！

- 走行中はエンジンからの熱で、ボックス内は高温になります。電気製品や生鮮食品、また揮発性の高いものなどは入れないでください。

ブレーキング

- 不要な急ブレーキはできるだけ控えてください。
- 雨天時は速度を控えて走行し、早めのブレーキを心がけましょう。
- 長時間、連続してブレーキを使用すると、ディスクが過熱しブレーキの効が悪くなる恐れがあります。
- ブレーキは、フロント・リア同時にかかるようにしましょう。



⚠ 注意！！

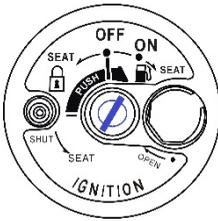
- フロントまたはリアブレーキを単独で使用すると、タイヤが滑りやすくなります。
- ABS の効果を維持し安全にお乗りいただくためにも、タイヤを交換するときはメーカー指定のタイヤ(仕様表参照)をご使用ください。

エンジンの始動と注意事項

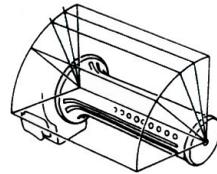
⚠ 注意！！

- エンジンを始動する前に、オイルと燃料量を確認してください。
- 予期せぬ事故を防ぐためにも、エンジンを始動する際は必ずブレーキレバーをしっかりと握ってください。

1. イグニッションキーを「ON」位置に回します。
2. リア、またはフロントブレーキレバーを握り、アクセルを完全に閉じたままでスタータースイッチを押し、エンジンを始動します。



④



⚠ 注意！

- スターターモーターの故障を防ぐために、スタータースイッチは 15 秒以上押し続けしないでください。
- スタータースイッチを数回試してもエンジンがかからない場合、イグニッションスイッチを一度 OFF にし、10 秒ほど時間をあけてから再度お試しください。
- 長期間車両を使用しない場合や、完全に燃料を使い切った状態になると、給油してもエンジンが始動しにくくなります。スロットルを閉じた状態で何度かスイッチを押して始動させてください。
- 排気ガスは有毒です。エンジンの始動は必ず換気の良い場所で行ってください。
- 車両を長期間使用しない場合は、フィルターの詰まりを防ぐために、少なくとも週に一回 10 分程度エンジンを始動させてください。

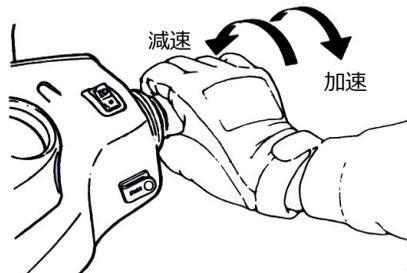
発進

- ・ ターンシグナルを ON にして方向指示を出し、後方の安全を確認します。
- ・ メインまたはサイドスタンドが格納されていることを確認し、発進させてください。

スロットルコントロール

加速：加速するには、スロットルをゆっくり開きます。

減速：減速するには、スロットルを閉じます。



エンジン停止と駐車

1. 停止または駐車させたい位置に近づいてきたら
 - ・ ターンシグナルを点灯させ他の車輛に知らせるとともに、減速して安全に本線から離れてください。
 - ・ スロットルを閉じつつ、フロント・リアブレーキを同時に使用して停止してください。
2. 停止および駐車
 - ・ ターンシグナルを停止させ、メインキーを「OFF」にしてエンジンを停止させてください。

⚠ 注意！！

- ・ 危険ですので、走行中はメインキーの操作を行わないでください。

3. 停止させたのち、スクーターの左側から降車し、平坦な場所にメインスタンドで駐車します。
4. 駐車させたらロックし、メインキーを取り外します。

⚠ 注意！！

- ・ 走行直後はマフラーが非常に高温になるので、歩行者や子供が火傷をしないよう安全な場所に駐車し、可燃物(油やガス、雑草や紙など)には近づけないでください。
- ・ サイドスタンドでの駐車は凸凹路面や駐輪場で行い、使用の際はハンドルを左に向けて安定性を高めてください。

トランスミッション

このスクーターには CVT トランスミッション変速装置が搭載されています。

CVT は、道路状況、荷重、速度、その他の要因に応じてエンジンのパワーをタイムリー且つスムーズにホイールに伝達できる仕組みです。

ギアチェンジの必要はありません。

日常の点検

項目		注意点
エンジンオイル		正しいオイルレベルか
燃料		燃料(ガソリン)は十分か(無鉛92(RON)オクタン価以上推奨)
ブレーキ		ブレーキに異常はないか(クリアランス1~2cm)
タイヤ	フロント	空気圧は正常範囲か(標準 1.8kgf/cm ²)
	リア	空気圧は正常範囲か(標準 2.3kgf/cm ²)
ステアリングハンドル		異常な振動や、ハンドルを左右に切る動作に重さや以上がないか
スピードメーター・ライト・ミラー		スピードメーターの異常や、ライト・ミラーに支障はないか
主要部品の締結		正しく締結されているか(正しいトルクで締め付けられている)
バッテリー		バッテリー電圧 12.0V(外気温 20℃標準)

⚠ 注意！！

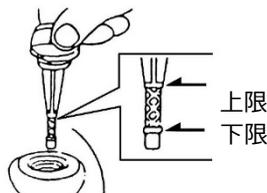
- 日常点検で不具合が見つかったときは、ご使用になるまえに SYM 正規販売店にご相談ください。

燃料の点検

- メインスイッチを ON にしたら燃料ゲージを確認し、燃料は必ず 92 オクタン以上の無鉛ガソリンをご使用ください。
- 給油をするときはエンジンを切り、メインスタンドを立てて、引火物に注意してください。
- 排気ガス制御システムに影響を及ぼしますので、ガソリンの入れすぎにはご注意ください。
- 坂道やカーブを上り下りすると燃料ゲージレベルがずれることがあります。異常ではありません。車輛が静止している状態が、実際の燃料レベルです。

オイル点検と交換

- メインスタンドで平坦な場所にスクーターを駐車させ、エンジンを切ってから 2~3 分置きます。オイルレベルゲージを取り外して洗浄し、オイルレベルを確認するために挿入(締め付けしない)します。
- オイルレベルがゲージの上限と下限の間にあるかどうかを確認します。
- オイルレベルが下限にある場合は、オイルを上限まで補充してください。
- SAE 10W- 40 API SJ** または同等かそれ以上のグレードのオイルを使用してください。SYM は、不適切なオイルを使用したことによって発生したいかなるエンジンへのダメージに対しても責任を負いません。
- SYM では MOTUL を推奨しています。
- オイル容量：1.0 リットル/一般交換時：0.8 リットル

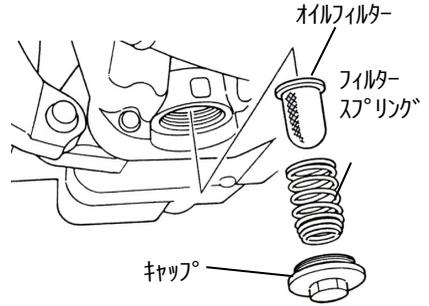


8. 乗車前点検とメンテナンス



【エンジンオイルフィルターの清掃】

- キャップとフィルターを取り外して、ガソリンまたはエアガンで洗浄してください。
- オイルフィルターはエンジンの右下にあります。



⚠ 注意！！

- 傾斜のある場所ではオイルレベルは正確に測れません。
- オイル交換の際は同時にオイルフィルターをチェックし、異物や破損、詰まりがないか確認し、早めに交換してください。
- 近距離走行が多いとエンジンオイルが劣化しやすくなります。エンジンを守るため、早めに交換しましょう。

トランスミッションオイルの点検と交換

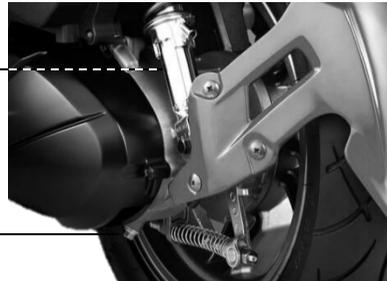
点検: メインスタンドを立てて車輛を平坦な場所に駐車し、エンジン停止後3～5分後にトランスミッションオイルを排出します。総容量：110cc、定期メンテナンス時：100cc

交換: ドレンボルトを確実に締めたのち、推奨されるオイルを補充してください(90～100cc)。フイラーボルトを取り付け、漏れがないか確認します。オイル漏れがある場合は、お買い求めの販売店もしくはお近くのSYM正規販売店にて点検してください。

※推奨トランスミッションオイル MOTUL SAE 85W/140 GL-5

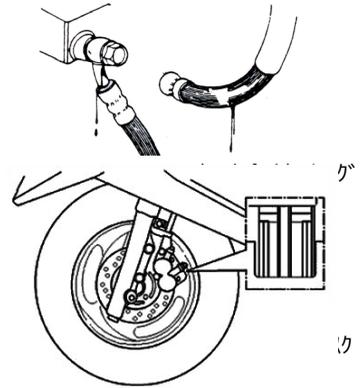
オイル注入口

ドレンボルト



ブレーキシステムの点検

- 漏れや損傷がないか目視で確認し、レンチなどの工具でジョイントが緩んでいないか確かめます。ブレーキホース等、ほかの部品との干渉がないか確認します。
- 漏れや損傷があった場合は、必ずお買い求めの販売店、もしくは SYM 正規販売店で点検/修理をおこなってください。
- 前後ディスクブレーキのブレーキパッドの摩耗を、キャリパーの背面から点検してください。パッドのライニングが最小値に達していたら、必ずお買い求めの販売店もしくは SYM 正規販売店にてブレーキパッドを交換してください。
- メインスタンドで車輛を平坦な場所に停車させ、リザーバの点検窓からブレーキオイルレベルを確認してください。推奨ブレーキオイル：(MOTUL DOT 3 または DOT 4)ブレーキフルード

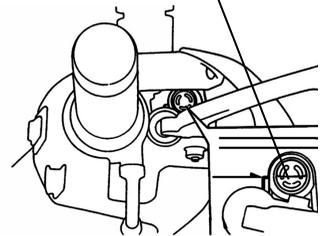


⚠ 注意！！

- 車輛が水平に駐車されていないと、正しいブレーキオイルレベルが測定できません。
- DOT3 または DOT4 ブレーキオイルのみご使用ください。
- ブレーキオイル補充の際は上限を超えないよう、また塗装やプラスチック部品を痛めますので、こぼさないようご注意ください。

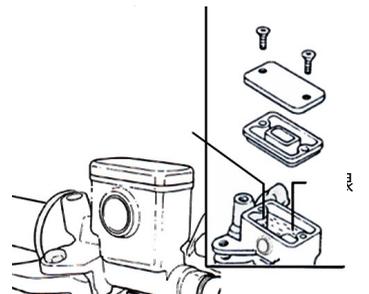
- ネジを緩め、シリンダーカバーを外します。
- シリンダー内に汚れやゴミが混入しないよう注意してください。
- ダイヤフラムを外します。
- シリンダーの上限までブレーキオイルを補充します。
- ダイヤフラムを取り付け、シリンダーカバーを付けます。
- ダイヤフラムの方向とゴミの混入に注意し、シリンダーカバーをしっかりと取り付けます。

最小値ライン



⚠ 注意！！

- オイル補充の際は、エンジンを停止してください。
- ブレーキの異音を防ぐため、定期メンテナンスの際には汚れや埃を除去して、ブレーキ性能を保つようにしてください。

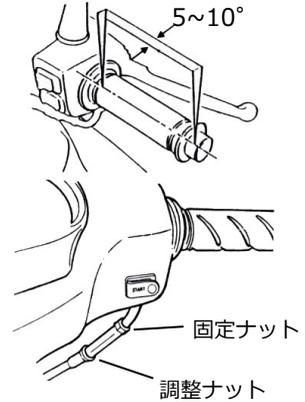


8. 乗車前点検とメンテナンス



スロットルの遊び量の点検

- スロットルクリアランス(遊び)は $5\sim 10^\circ$ 程度です。
- 調整する時はまず固定ナットを緩め、調整ナットで適正值に合わせてから、再度ナットで固定します。
- 調整後にハンドルやスロットルを回してみ、正常に動作しているか違和感や干渉がないか確認してください。



⚠ 注意！！

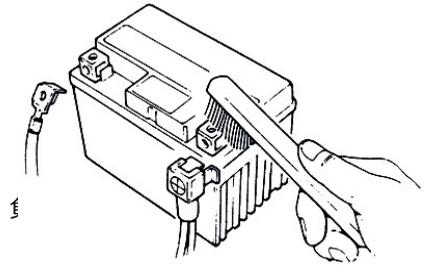
- 速度制御が不能になるのを回避するために、スロットルは常にスムーズに動作するようにしておいてください。

バッテリーの点検

- この車輛は、電解液の点検や補充が不要なメンテナンスフリー(MF)バッテリーを使用しています。異常がある場合は、SYM 正規販売店に点検を依頼してください。
- バッテリー端子が汚れていたり腐食している場合は、取り外して清掃してください。バッテリーを取り外す手順は次のとおりです：
- メインスイッチを「OFF」にした後、まず負の端子(-)を取り外し、次に正の端子(+)を取り外します。

⚠ 注意！！

- 端子に白い物質が付着している場合は温水で洗浄してください。
- 端子が腐食(錆)している場合は、スチールブラシまたはサンドペーパーできれいにしてください。
- 洗浄後は、端子にグリースを塗布してください。
- 取り付けは、取り外しの逆の要領で行ってください。

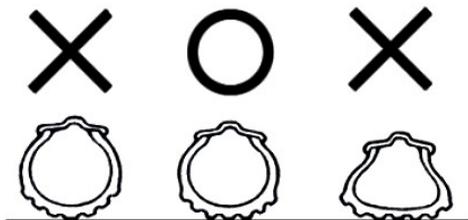


⚠ 注意！！

- 密閉型バッテリーですので、カバーは絶対に開けないでください。
- 長期間使用しない場合はバッテリーをスクーターから外し、充電したのち換気の良い場所に保管してください。バッテリーが取り外せない場合は、マイナス端子を外しておいてください。
- 交換が必要な場合は、必ず密閉型メンテナンスフリーバッテリーを使用してください。
- バッテリーが正常に取り付けられていないと、車輛の電子部品が正常に動作しません。
- 電子部品の損傷を防ぐため、エンジン始動中はバッテリーのプラス・マイナス端子いずれも取り外さないでください。

タイヤ/タイヤ空気圧の点検

- タイヤの点検や空気を入れる際は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。
- タイヤ圧力を測定する場合は、タイヤが冷えている状態で行ってください。
- タイヤ圧力計で空気圧を測定し、推奨空気圧に膨らませてください。



標準タイヤの推奨空気圧：規格表参照

- タイヤの接地面または側面に、ひびや損傷がないか目視検査します。
- タイヤを目視して、トレッドパターンに釘や石が刺さったり挟まっていないか確認します。
- インジケータで、タイヤの摩耗を点検します。
- 摩耗した場合はタイヤを交換してください。
- トレッドの浅いタイヤは非常に危険です。0.8mm 以上の深度を目安にしてください。



ータ

⚠ 注意！！

- タイヤの両側に3～4個の「△」、「TWI」等のマークのインジケータがあります。これに沿って溝の間に小さなラバーブロックがあり、タイヤの摩耗とともに現れてきます。これが現れたらタイヤを交換してください（0.8mm 以下に達している）。

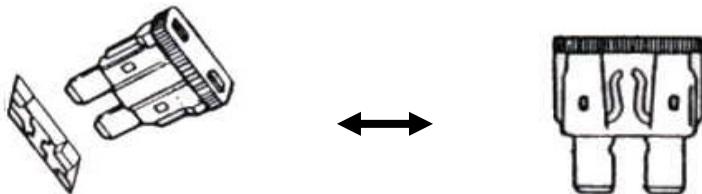
ステアリング/フロントフォークの点検

- エンジンを停止させた状態で行ってください。
- フロントフォークに損傷がないか目視します。
- ステアリングハンドルを上下に動かし、フロントフォークから異音がしないか確認します。
- レンチ等の工具で、フロントフォークシャフトのナットが緩んでいないか確認します。
- ステアリングハンドルを上下・左右・前後に振って、緩みや異常音がないか確認してください。
- ステアリングハンドルが、ブレーキワイヤーで引っ張られていないか点検します。
- 異常を感じた場合は、すぐにご購入の販売店かSYM 正規販売店で点検をお受けください。



ヒューズの点検と交換

- メインキーをオフにします。
- ヒューズは、バッテリー近くのヒューズボックスに取り付けられています。
- ヒューズボックスを開けて中のカバーを持ち上げ、ヒューズワイヤーの両端をつかんでコネクタから引き上げ外します。
- 夜間など、ライトが点灯しない場合はヒューズがとんでいる可能性があります。
- 交換は同じ仕様のヒューズをご使用ください。仕様外のヒューズやワイヤーを使用することは絶対にしないでください。
- 交換後にもかかわらず繰り返し断線や異常が認められる場合には、お買い求めの販売店かSYM 正規販売店にて点検を受けてください。



断線状態

ヘッドライトとテールライトの点検

- エンジンを始動し(ON)、ヘッドライトとテールライトが点灯しているかどうかを点検します。
- ヘッドライトの明るさと角度を点検します。
- ヘッドライトとテールライトのレンズが汚れていないか、壊れていないか、または緩んでいないかを点検します。

ブレーキランプの点検

- メインキーをONにして前後のブレーキレバーを別々に引き、それぞれブレーキライトが点灯しているかを確認します。
- ブレーキライトのレンズが汚れていないか、壊れていないか、または緩んでいないかを点検します。

ターンシグナルとホーンの点検

- メインキーを ON にします。
- ターンシグナルを ON にして、全てが正しく機能しているかを確認します。
- ターンシグナルのレンズの汚れや、壊れていないか、または緩んでいないかを点検します。
- ホーンボタンを押して、ホーンが鳴るかどうかを確認します。

⚠ 注意！！

- ターンシグナルの電球は指定のものをご使用ください。仕様外の電球は正しく動作しない可能性があります。
- 右左折や車線変更の際には、必ず方向指示を出し前後の車輛に警告してください。
- 前後の車輛に誤解を与えて事故につながらないように、使用後は速やかに方向指示灯をリセットして消灯してください。
- 回路システムや電気系統の損傷を防ぐため、使用するターンシグナルバルブは指定のものをご使用ください。
- 不要なアクセサリを取り付けたり、勝手な改造はしないでください。電流の異常を起こし火災の原因になる可能性があります。

燃料漏れの点検

- 燃料供給システムに漏れがないか、点検してください。

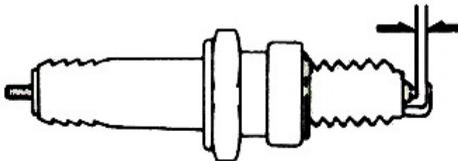
各部の潤滑点検

- 車体の様々な可動部分の潤滑が十分かどうか確認します。
(例：メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバー、スロットルケーブル、その他)

スパークプラグの点検

- 高電圧ラインカバーを外します。
- スパークプラグや電極に、汚れや炭素付着物がないか点検します。
- 電極間の汚れをスチールブラシで取り除き、ガソリンで洗浄してから乾いた布で拭き取ります。
- 電極間のギャップを 0.8~0.9mm に調整します(ワイヤーゲージで測定してください)。
- スパークプラグの取り付けは、まず手でロックしてからレンチで 1/2~3/4 回転まわしてください。

0.8~0.9



警告：スパークプラグ点検の際は、エンジンの熱に注意してください！

※ メーカー推奨の、エンジン仕様に適合したプラグをご使用ください(仕様表参照)。



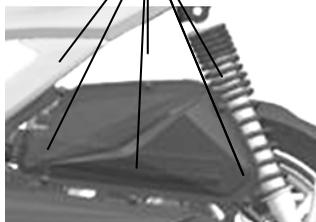
エアクリーナーの点検

エアクリーナーの汚れはエンジンのパフォーマンスを下げ燃費を悪化させます。

〈取り外し〉

1. 車体左下サイドカバーのネジを緩めてサイドカバーを外します。
2. フィルターカバーのネジを緩め、フィルターカバーを外します。
3. エアクリーナーエレメントのネジを外します。
4. エレメントを清掃または交換します。
5. エアフィルターエレメントを交換したあと、コンピューター診断ツールでリセットします。

フィルターカバー固定ネジ



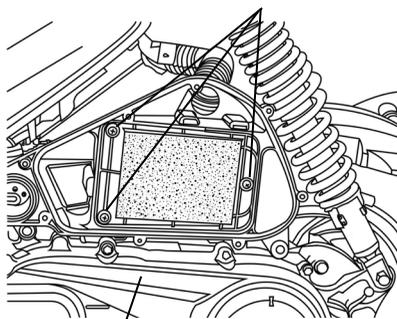
〈取り付け〉

- 取り外しと逆の手順で取り付けます。

⚠ 注意！！

- エアフィルターが正しく取り付けられていないとシリンダーに埃が入り込み、エンジンの摩耗や破損が生じエンジンの寿命に影響を及ぼします。
- エンジンが始動しにくくなりますので、洗車時フィルターは濡らさないようにしてください。
- エアフィルターの後ろの小さな四角いボックスは、クランクケース内圧コントロールバルブのセパレータです。1,000km 毎に清掃・点検を行ってください。
- 定期メンテナンスの際、トランスミッションクラッチ等の清掃も行ってください。

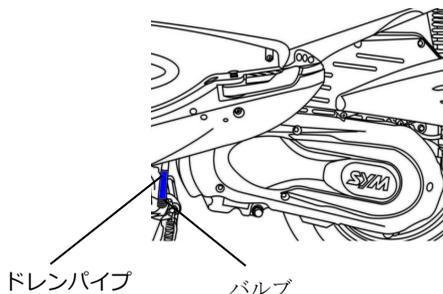
フィルターエレメント固定ネジ



フィルターエレメント

クランクケース内圧コントロールバルブ

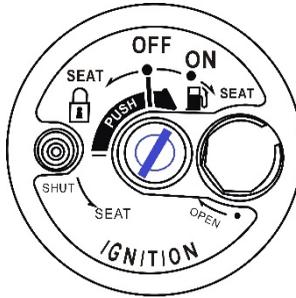
オイルの吹き返しや結露による水分の混入などでバルブが固着を起こし、正常に動作しなくなることがありますので年に1～2回程度パーツクリーナーで内圧コントロールバルブを洗浄してください。



ドレンパイプ

バルブ

エンジンが始動しないとき



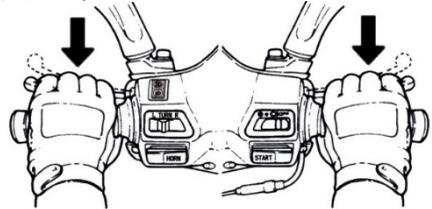
1. メインキーは ON になっていますか？

最後はリザーブタンクです



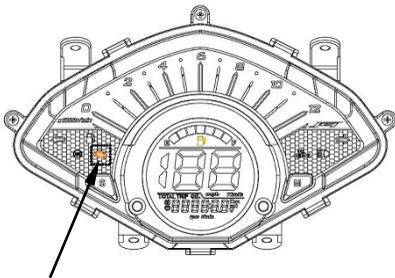
リアブレーキ

フロントブレーキ

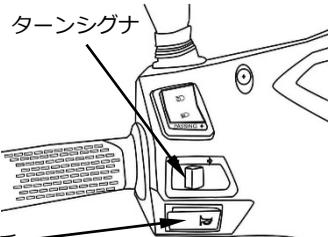


2. 燃料タンクに十分な燃料はありますか？
(E:空 F:満)

3. スタータースイッチを押すときにフロントまたはリアブレーキを握っていますか？



フューエルインジェクションインジケーター(EFI)



ホーンスイッチ

4. フューエルインジェクションインジケーター(EFI)が点灯していませんか？

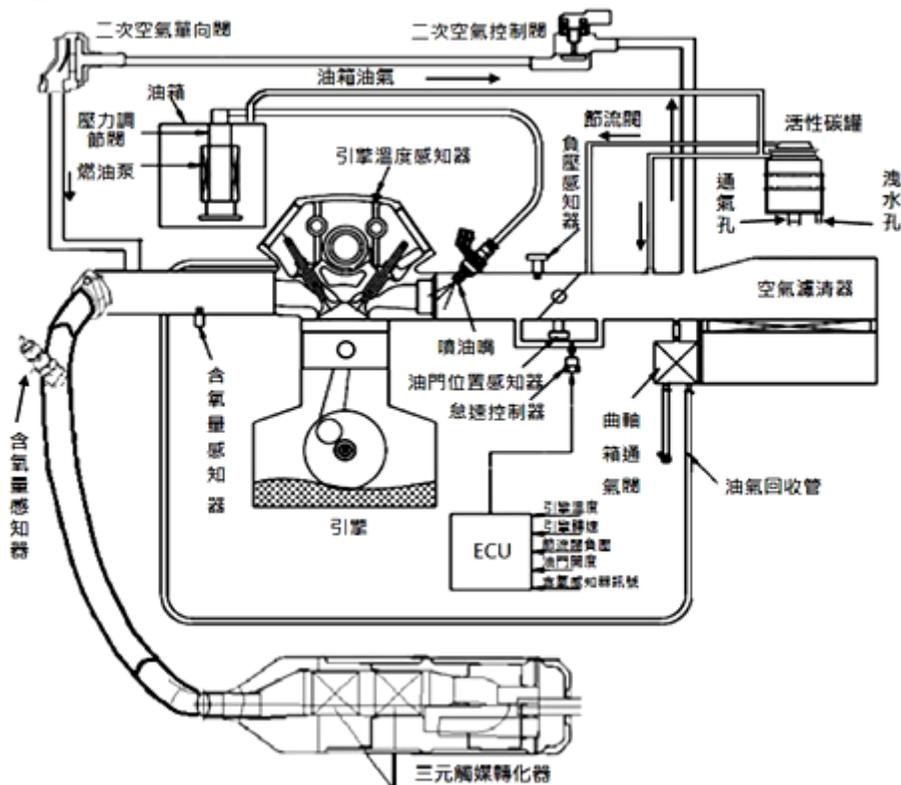
異常がみられる場合は、お買い求めの販売店もしくはSYM正規販売店にお問い合わせください。

5. メインキーを ON にし、ホーンスイッチを押してもホーンが鳴らない場合は、ヒューズが断線している可能性があります。



排気ガス制御システム

(1). 構造 :



燃料蒸発ガス排出制御システム

システム :

燃料タンクなどから発生したガソリン蒸気が大気中に排出されないように抑制するチャコール・キャニスターです。活性炭に吸着されたガソリン蒸気はシステム内で分離され、再びエンジンに吸い込まれ再利用されます。

三元触媒コンバーター

システム :

排気中に含まれる有害物質である HC(炭化水素)、CO(一酸化炭素)、NOx(窒素酸化物)を、触媒コンバーターにより酸化・還元して、同時に浄化する装置です。

クランクケース内圧コントロールバルブ

システム :

クランクケースからブローバイガスと同時に空気を引き抜き(ワンウェイ)、クランクケース内の圧力を下げることで空気の密度を下げ、ピストンの上下運動性能をより向上させる装置です。

電子制御ユニット

- センサー感知式でステッピングモーターをコントロールし、吸気マニホールドへのバイパスパイプを調整してアイドルリングスピードを修正しエンジンを正常に動作させます。
- エンジンをかけた直後(エンジンが冷えている状態)は吸気を増加させてアイドルリングスピードを上げ、エンジン始動直後の不安定性とフレームアウトを防ぎます。
- エンジンが温まるまでは、ステッピングモーターによりアイドルリングスピードが高いまま運転を続けます。
- 吸気マニホールドに供給される空気量をモニタリングすることで、エンジンのアイドル回転数を制御し、あわせて排気ガス濃度を調整します。

酸素センサー (O2 センサー):

機能: シリンダーから排出される排気ガス中の酸素濃度を測定してコンピューターに信号を送り混合比を調節します。酸素含有量が少ないと混合比が濃くなり、排気ガス中のHCとCOの濃度が高くなります。酸素含有量が多いと混合比が希薄になり、燃焼温度の上昇によって排気ガスが発生しNOxの濃度が高くなります。

トラブル: アイドリングスピード異常(高い)、燃料消費系統

発生が予想される不具合: 損傷、接合部の緩み、接合部の腐食

機能: エンジン回転数がアイドルリング、もしくはごく低い場合、2次エアバルブが解放されるためCOの濃度を低下させることができます。

二次空気導入装置(セカンダリエアインジェクションチェックバルブ)

原理: 排気ガスに含まれる未燃焼炭化水素を完全燃焼させる装置。

外気を取り込んで排気管内に送り、排気に含まれる有害成分である炭化水素を酸素と反応させて取り除く装置です。

トラブル: 正常に機能しない場合、運転中に燃料が吹き返すことにより、不完全燃焼が発生するため、CO値が高すぎて排気ガス中の規制量を満たさなくなる恐れがあります。

発生が予想される不具合: 損傷、短絡、接合部の緩み、接合部の腐食

- O2センサーと制御バルブが故障すると、フューエルインジェクションインジケーターが点滅して故障を知らせます。速やかにSYM正規販売店に行き、専用の診断装置で検査を受けてください。機器の異常が認められた場合、すぐに修理・交換をしてシステムが正常に動作するようにしてください。
- これらの関連システムは、自分で分解、修理、調整しないでください。異常がある場合は速やかにSYM正規販売店に行き、専用の診断装置で調整・修理を受けてください。
- 駐・停車中にアクセルをむやみにふかさないでください。コンピューターによるシステムの誤判定や警告灯がつく可能性があります。
- 車輻デザインや構造、それに付随するマニュアルの写真や解説は、予告なく変更される場合があります。

警告

- ブレーキシステムやステアリング(フロントフォーク) タイヤなどに異常がある場合は、安全のため速やかにSYM正規販売店にて点検・調整・交換を行ってください。

11. 車輻の大気汚染物質排出基準に関する情報
 12. 燃費の向上と大気汚染物質排出削減について



車輻の大気汚染物質排出基準に関する情報

* 参考値：製造国である台湾（中華民国）での規制値です。

一、使用車輻の大気汚染物質排出基準：

大気中粒状汚染物質(不透明率):1993/1/1以降、30%未満

一酸化炭素(CO):106/1/1以降、2.0%以下

炭化水素(HC):106/1/1以降、1,000PPM以下

注：102/10/28の中華民国環境保護庁の指令番号 1020091280

二、使用車輻から排出される大気汚染物質の細かい基準：

- 排出基準項目：粒子状汚染物質、一酸化炭素(CO)および炭化水素(HC)
- 工場出荷日による

1996年7月1日以降の排出基準	罰則金額	汚染物
CO \geq 3.5%又は HC \geq 1,600ppm	新台幣 500 元	CO、HC 排出基準超過
CO \geq 3.5%及び HC \geq 1,600ppm	新台幣 3,000 元	CO、HC 排出基準超過
CO \geq 5.25%及び HC \geq 2,400ppm	新台幣 6,000 元	CO、HC 排出基準超過 1.5 倍

燃費の向上と大気汚染物質排出削減について

三、車輻は大気汚染物質を排出します：

ガソリンの不完全燃焼によって、一酸化炭素(CO)と炭化水素(HC)が生成・排出され、さらに燃費も悪くなります。車輻の性能を維持し、大気汚染物質の排出削減につとめ、燃料を節約するためにも、定期的なメンテナンスはとても大切です。

四、スパークプラグは定期的に汚れを取り除きギャップを調整して、必要であれば新しいものと交換してください。劣化したものは、不完全燃焼や空気の汚染につながります。

五、適切な空気混合比を得るために定期的なオーバーホール、またはメンテナンスを行ってください。バルブが摩耗していたり密閉が不十分だったり、開閉が不適切な場合は不完全燃焼が起きます。

オイルレベルが高すぎると、燃焼室に入り込み炭素の堆積を起こして混合ガスの燃焼に悪影響を与えます。オイルを無駄にし、空気を汚染するものになりますのでお気をつけください。

燃焼効率を上げ排気ガスによる汚染を少なくするには、関連機器の状態を良好に保ち効率の良い燃焼をさせることがとても大切です。



六、エンジンの劣化や摩耗により余計なガソリンやオイルを消費している場合、燃費を節約し汚染を減らすためにも出来るだけ早めに修理など対処しましょう。

七、燃費の節約と汚染の削減のためにも、燃料点火システムの状態を常に良好に保つようにしましょう。

(1)走行前は出来るだけ暖機運転をしてください。

(2)走行中は落ち着いてスロットルを開けるようにし、一定の速度で運転するよう心がけてください。理由もなくスロットルを開けるのはやめましょう。

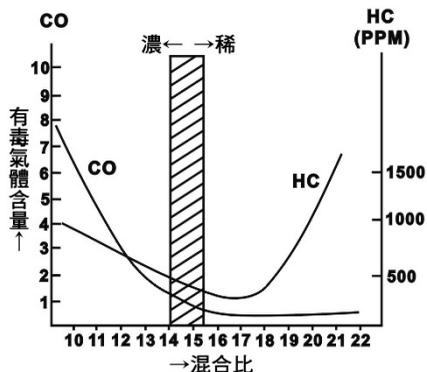
(3)停止するときは早めのブレーキを心がけ、出来るだけ急ブレーキは避けましょう。

八、燃費を良くし大気汚染を減らすため、厳しい排気ガス検査にも適合した車輛は、最良の状態に整備してあります。加速が弱いからと勝手に調整することは、エンジンの摩耗につながりますので絶対にしないでください。

車輛から排出される大気汚染物質の要因

CO	HC	考えられる原因
高	正常	混合比が濃すぎる(ガリ)と空気
正常	高	1. 点火システムの不具合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 不正確な点火タイミング ・ スパークプラグの汚れ または不適切なギャップ 2. 排気バルブの摩耗 3. シリンダーの摩耗
低	高	1. 混合比希薄による不完全な点火 <ul style="list-style-type: none"> ・ 真空ノズルからの漏れ ・ ジョイントガスケットの空気漏れ ・ 燃油噴射系統
高	高	1. エアフィルター不良 2. インジェクター不良 <ul style="list-style-type: none"> ・ 混合比調整不良 ・ 燃油噴射システム設定不良 3. PCVバルブの緩み

排煙異常を引き起こす原因
1. オイル過多
2. オイルポンプ機能不全
3. 不適合オイルの使用
4. エンジンの老朽化(劣化・摩耗)
5. 長時間に渡る低速運転(20~30km/h)
6. 排気管の未清掃または未交換



14. 仕様/諸元



項目	JET S	
	FK12V6Z1	FK12V7 (ABS)
長さ/幅/高さ(mm)	1,813 / 710 / 1,095	1,813 / 705 / 1,095
ホイールベース/シート高	1,286 / 780	
車重(kg)	129kg	129kg
最小旋回半径	2.0m	
ヘッドライト(ハイ/ロー)	12V 35W / 35W ×2	
フロントポジションライト	LED	
テール/ブレーキライト	LED	
フロント/リアターンライト	12V 16W×2 / 12V 10W ×2	
ターンシグナルインジケータ/ライセンスプレートライト	12V 1W×2 / 12V 5W×1	
メーターパネル	LED	
ハイビームインジケータ	LED	
ヒューズ	25A ×1 / 15A ×2 / 10A×1	
バッテリーの種類/容量	TTZ10S-5E/ 12V 8.6Ah	
スパークプラグ	CPR7EA-9	
フロント/リアブレーキ	ディスク(Ø226 mm) / ディスク(Ø190 mm)	
アンチロックシステム(ABS)	無	有
タイヤ(フロント/リア)	110-70-12 / 120-70-12	
タイヤ空気圧(フロント/リア)	フロント標準 1.8 kgf/cm ² リア標準 2.3 kgf/cm ²	
総排気量	124.6 cc.	
最大出力	11.6 ps(8.5kw) / 8,500 rpm	
最大トルク	1.03 kgf-m(10.Nm) / 6,500 rpm	
登坂力	28°以上	
点火システム/圧縮比	CDI/10.8 : 1	
アイドル回転数	1,700 ±100 rpm	
始動システム	セルフスターター	
燃料タンク容量	6.8L(92(オクタン)以上無鉛ガソリン:推奨)	
エンジンオイル容量	1L (交換時 0.8L) 推奨:MOTUL 同等グレード	
トランスミッションオイル容量	110 cc. (交換時 100 cc.)推奨:MOTUL 同等グレード	

※ 仕様の一部は、実際の車輛と異なる場合がございます。

アンチブレーキロックシステム

アンチブレーキロックシステムは、急な強いブレーキをかけた際にホイールがロックされるのを防ぐ機能です。ABS 作動時に、断続的なブレーキ力により安定したハンドリングを可能にします。ホイールのロックを防ぎ車輛を安定させることができますが、次のことにご注意ください：

- 路面コンディションが悪い状況、誤判断、不適切なブレーキング操作などには対応できませんので、普段から安全に心がけ、適切な運転をするようにしましょう。
- カーブを曲がっている途中で急ブレーキをかけても ABS では制御できません。カーブに侵入する際は、あらかじめ十分に減速しましょう。

警告！！

- ブレーキシステム、ステアリング(フロントフォーク)、タイヤをよく確認し、異常が見られる場合はすぐに SYM 正規販売店にて点検・調整・交換を依頼してください。

車輛整備の注意事項：

1. 塗装の艶消し効果を保つために、一般的なクリーナー、研磨剤、ワックス製品の使用は避けてください。
2. 艶消し(マット加工)加工をしたボディにワックス製品を使用すると艶消し効果が失われますので使用しないでください。
3. ボディの光沢が不均一になる可能性がありますので、洗いすぎ、自動洗車機、また直射日光のあたる場所での洗車は避けてください。
4. ボディに昆虫や鳥糞が付着した場合は、なるべく早く取り除くか、あるいは専用のクリーニングスプレーを使用して落としてください。

注意！！

- 燃料供給システムを正常に機能させるためにも、定期的なオイル交換サイクルを守り、さらに SYM 「燃料システム洗浄剤」をガソリンタンクに添加することをお勧めします(3,000km あるいは 3 か月毎)。

15. 附表



● 巻末注意書

NO	項目	補 足
1	ランプやメーターの曇り(結露)	雨天時や洗車後など湿度の高い状況では結露が発生し、メーター内やランプ内に水滴が発生することがありますが、自然に解消されます。
2	マットカラーボディのメンテナンス	マットペイントの塗装には、表面に傷や損傷を与える可能性があるため、ワックスや研磨剤などの使用は控えて、埃や汚れがいたら中性洗剤と清潔な水で洗い流してください。
3	カラーやゴールドのボディのメンテナンス	シリコン化合物を含む洗剤やワックスを使用すると、塗装が損傷しますのでおやめください。
4	ブレーキシステムのメンテナンス	定期メンテナンスの際はブレーキシステムの清掃も行ってください。ノイズが減りブレーキのききもよくなります。
5	メッキ部分のメンテナンス	メッキ部分は塩分や酸性雨、また高温多湿により腐食や酸化を起こす可能性があります。表面の光沢と明るさを保つために、まめに拭いてください。
6	トランスミッションのメンテナンス	定期メンテナンスの際は、SYM正規販売店に依頼してトランスミッションクラッチ等も清掃してください。
7	EFIシステムのメンテナンス	メンテナンスマニュアル参照
8	燃油ゲージの増減	上り坂やカーブを走行中に、燃油ゲージが増減することがありますが異常ではありません。停止しているときに正常な燃料レベル値です。
9	車輛の総荷重(前・後荷重)	総荷重はモデルごとに異なります。
10	マグネット保護フィルム	誤って機器に挟めたり異常動作をさせないように、車輛の使用を始める前に必ず保護フィルムを剥がしてください。
11	液晶保護フィルム	液晶面の保護フィルムを剥がさずに使用を続けると、直射日光や雨の影響で表面がぼやけて見えにくくなる恐れがありますので、必ず剥がしてご使用ください。
12	スターターモーター	スタータースイッチは続けて10秒以上押さないでください。再び押す場合は、10秒以上間隔を
13	メインキーに飾り等を付けすぎないこと	操作に影響を及ぼす恐れがありますので、メインキーには必要以上にキーホルダーやアクセサリーをつけないでください。

16. 保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

16. 保証約款

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題

機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状

車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品

車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリーやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定にのっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。